

<原著論文>

インドネシア人看護師の価値観と海外就労への関心について

The cultural values of Indonesian nurses and their interest in working overseas

佐藤 文子¹, Dwi nurviyandari², 早川 和夫³

要 旨

2007年、インドネシアと日本政府との間で経済連協定が締結されたことに伴い、近年、インドネシア人看護師候補者が多く来日している。今後もその数が増加していくことが予測されるが、インドネシア人看護師の全体像を把握する上での基本情報が非常に乏しく、このままでは新たな受け入れ施設において文化的相違による衝突が生じると予測される。そこで本研究では、現地のインドネシア人看護師を対象に彼らの価値観や海外就労に関心を持つ個人・文化的特性などを明らかにするため、アンケート調査を実施した。その結果、インドネシア人看護師は、「宗教」に最も重きを置いていることが明らかになり、そしてまた、対象者の年齢、看護師経験年数、「余暇」の重要度が海外就労への関心と関連していることが示唆された。

キーワード：インドネシア, 看護師候補者, EPA, 価値観, 海外就労

Indonesia, nurse candidate, Economic Partnership Agreement, Values, Working abroad

I. 緒言

日本・インドネシアとの経済連携協定 (Economic Partnership Agreement、以下EPA) に基づき、2008年8月、同国より第1陣となる看護師候補者104名が来日した。翌年度以降も、同候補者の受け入れは継続されており、厚生労働省の報告¹⁾によれば、2013年7月末までの累計来日者数は440名に及んでいる。加えて、2009年度にはフィリピンからも候補者の受け入れが開始されており、日本の医療・介護の現場では、徐々に、そして確実にグローバル化が進んできている^{2, 3)}。

また、インドネシア保健省の統計データには世界労働市場におけるインドネシア人看護師のニーズ予測まで算出されていることから、今後も、国を挙げて看護師養成を行い、日本を含む諸外国へと積極的に送り出していこうという姿勢がみられる⁴⁾。このような背景から、日本の医療・介護の現場では、インドネシア人看護師の数が今後も増加していくことが見込まれているが、その一方で、現場の日本人ス

タッフとのコミュニケーションや文化の違いによる誤解など、さまざまな課題が発生すると予想されている⁵⁾。

しかしながら、これまでの研究では、インドネシア人看護師を受け入れた現場からの日本語教育や国家試験対策等の紹介など、エピソード的・断片的な報告が多く、そもそも海外就労を目指すインドネシア人看護師は文化的にどういった価値観を有するのか、また、どういった特性を有し、海外就労に何を期待しているのかなど、インドネシア人看護師の全体像を把握するための基本情報が非常に乏しい状況にある。

事実、外国人看護師を受け入れた施設からは、受け入れ以前に文化の違いを理解することができていれば、受け入れ当初の混乱を回避できたのではという報告がなされている⁵⁾。また、別施設からも、インドネシア人看護師を理解できるよう、より多くの情報を求める内容の意見が出されている⁶⁾。

このような状況を踏まえ、本研究では、現地のインドネシア人看護師を対象に、彼らの価値観を把握

1 Fumiko SATO 千里金蘭大学 看護学部 地域・広域看護学講座 受理日：2013年10月15日
2 Dwi nurviyandari インドネシア大学 看護学部 査読付
3 Kazuo HAYAKAWA 大阪大学大学院 医学系研究科

すると共に、海外就労の関心について、その文化・個人的特性を明らかにすることを目的とした。本研究結果は、今後、日本の医療や介護施設においてインドネシア人看護師の雇用を検討していく上での基礎資料として活用できると考える。

II. 方法

1. 用語の定義

文化とは、人々の言動や生活を方向づけ、「あたりまえ」の生活を「あたりまえ」ならしめる規約・生活様式・意味の総体をいう⁷⁾。

価値観とは、物事がどれくらい大切か、またどれくらい役に立つかという程度、またその大切さ、値打ちについての個人、または世代・社会の基本的な考え方をいう⁸⁾。

2. 調査場所及び調査対象者

調査場所は、調査許可の得られたジャワ島タンゲラン市に所在する私立病院Aと、スマトラ島ブカンバル市にある私立病院Bの2施設を対象とした。タンゲラン市は、インドネシアの首都ジャカルタの西約20kmに位置する商業都市の1つであり、人口は、約150万人である。ブカンバル市は、スマトラ島にあるリアウ州の州都であり、かねてより貿易港として知られてきた都市である。2006年時点での同市の人口は、約75万人である。

今回調査対象となった2施設は、神経科、循環器科、産婦人科、小児科、泌尿器科、救急外来が併設されている総合病院である。それぞれの病床数はA病院180床、B病院が300床であり、看護師数は、それぞれA病院239人、B病院299人（2010年調査時点）である。両施設における総医療従事者数は、1,500

人（うち、常勤医師数は120人）にのぼり、患者一人一人のニーズに対応した手厚いサービスを売りにしている。

また、調査対象者は、A病院、B病院に勤務する看護師である。両施設は3交代制を取っており、A病院については日勤帯のみ、B病院は各時間帯に調査依頼に伺い、調査協力に同意を得られた者のみを対象とした。

3. 調査項目・調査票の作成

1) 基本属性

基本属性について（1）人口・世帯に関する状況と（2）社会経済的状況から作成した。（1）人口・世帯に関する状況では、居住地域、性別、年齢、宗教、婚姻状況、世帯家族数、子供の有無、扶養者の有無、最終学歴、海外渡航経験を調査した。（2）社会経済的状況では、現施設での就労年数、看護師経験年数、勤務形態、シフト勤務の有無、家族・親族の海外就労経験について調査した。

2) 価値観

世界価値観調査（2005）にある生活上の重要度を問う項目を引用して作成した。具体的には、「家族」、「友人・知人」、「余暇」、「政治」、「仕事」、「宗教」の6項目について、「あなたの生活にとってどの程度重要かお知らせください」と聞き、それぞれについて日常生活上でどの程度重要かを「全く重要でない（1）」から「とても重要（5）」の5件法で回答を求める内容とした。

3) 海外就労への関心

“海外で働いてみたいですか”について、「はい」、「わからない」、「いいえ」の3択で回答を求めた。分析では、「はい」を「関心有群」、「わからない」、「いいえ」を「関心無群」として2つに分類した。

4) 海外就労に期待すること

3)の“海外就労で働いてみたいですか”の問いに対し、「はい」と回答した者のみを対象として回答を求めた。回答の選択肢は、労働政策研究・研修機構による従業員の意識と人材マネジメントの課題に関する調査（2007）を参考にして作成した。

5) 調査票の作成

調査項目の内容と構成について確定した後、筆者自身で英語版の調査票を作成し、2010年7月にインドネシア人看護師6名を対象にプレテストを実施した。その際の被験者からのコメントを受け、調査票に加筆修正を加え、その後、インドネシア大学看護



図1 調査地

学部教員の協力を得てインドネシア語版の調査票を作成した。内容の正誤性の確認については、現地の専門翻訳業者に逆翻訳作業を依頼することで行った。

4. データ収集及び分析方法

2010年10月11日から14日の4日間にかけて調査協力の得られた2施設において、看護師を対象とした無記名自記式質問紙調査を実施した。調査期間のうち、初日のみタンゲラン市で調査を行い、残りの3日間はブカンバル市において実施した。各施設での調査票の配布・回収は、各施設の管理スタッフの協力の下で行った。

分析方法として、まず対象者の基本属性、価値観、海外就労への関心など、全ての調査データについて記述統計量を算出した。次に、海外就労への関心について、その関連要因を検討するため、「関心有群」と「関心無群」の2群間で、全調査項目に対し、 χ^2 検定、t検定を行った。解析には、SPSSVer20 for Windowsを用い、有意水準は両側5%とした。

5. 倫理的配慮

本研究は、千里金蘭大学看護学部倫理審査委員会の承認を経て行われた。各調査票の表紙には、調査の趣旨、調査への協力は任意であること、匿名性を保持すること等を記した文章を明記し、調査票の回収をもって調査への同意とみなした。

Ⅲ. 結果

今回の調査では249名より回答を得ることができた。そのうち、15名の助産師と欠損値の著しかった7名を省く227名を分析の対象としている。

1. 基本属性

(1) 人口・世帯に関する状況 (表1)

対象者の属性を表1に記した。ブカンバル市在住は186名(81.9%)で、女性が194名(86.6%)、平均年齢は27.6±4.79歳であった。宗教は、イスラム教が122名(54.0%)で最も多く、次いでプロテスタント78名(34.5%)、カトリック21名(9.3%)であった。婚姻状況は、独身が138名(60.8%)であり、最終学歴は専門学校が186名(82.3%)で圧倒的であった。

表1 対象者の基本属性<人口・世帯に関する情報>

全体n=227

<人口・世帯に関する状況>	
居住地域	
ブカンバル	186 (81.9)
タンゲラン	41 (18.1)
性別	
女性	194 (86.6)
男性	30 (13.4)
年齢 (range: 20-45)	27.6±4.79
宗教	
イスラム	122 (54.0)
カトリック	21 (9.3)
プロテスタント	78 (34.5)
その他	5 (2.2)
婚姻状況	
独身 (離婚1ケース含)	138 (60.8)
既婚 (死別2ケース含)	89 (39.2)
世帯家族数 (range: 0-10)	3.81±2.29
子供の有無	
無	120 (62.5)
有	72 (37.5)
扶養者の有無	
無	98 (54.1)
有	83 (45.8)
海外への渡航経験	
無	197 (87.6)
有	28 (12.4)
最終学歴	
専門学校	186 (82.3)
大学	40 (17.7)

値はn (%) もしくはmean±SD、欠損値は除く。

表2 対象者の基本属性<社会経済的状況>

全体n=227

<社会経済的状況>	
現在の職位	
Primary nurse	179 (82.9)
Associate nurse	32 (14.8)
その他	5 (2.3)
現施設での就労年数 (年)	1.12±0.72
看護師としての就労年数 (年)	5.24±4.60
勤務形態	
フルタイム	118 (57.0)
パートタイム	53 (25.6)
その他	36 (17.4)
シフト勤務の従事の有無	
無	38 (17.4)
有	181 (82.6)
家族や親族の海外就労経験	
無	105 (49.5)
有	107 (50.5)

値はn (%) もしくはmean±SD、欠損値は除く。

(2) 社会経済的状況 (表2)

対象者の現在の職位は、Primary nurseが179名(82.9%)、それより下位と位置づけられるAssociate nurseが32名(14.8%)であった。現職場での平均就労年数は 1.12 ± 0.72 年、看護師経験年数は 5.24 ± 4.60 年であった。勤務形態は、118名(57.0%)がフルタイム、181名(82.6%)がシフト勤務に従事していた。家族・親族の海外就労経験では、「有」が107名(50.5%)であった。

2. 価値観 (図2)

日常生活における「家族」、「友人・知人」、「余暇」、「政治」、「仕事」、「宗教」の重要度について、図2のような結果が得られた。値が最も高かったのは、「宗教(4.8)」であり、次いで「家族(4.7)」、「仕事(4.5)」であった。また、6項目のうち最も値が低かったのは「政治(2.9)」であった。

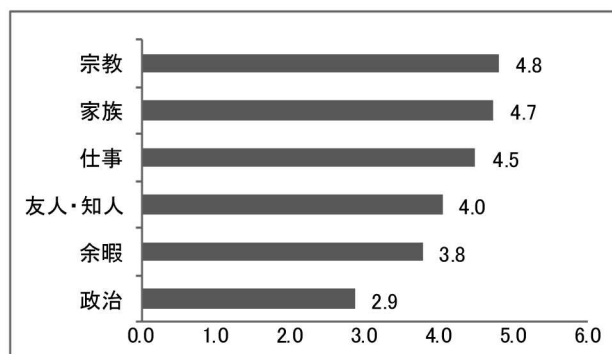


図2 価値観のスコア(1-5) (n=227)
値は平均値 小数点以下第2位切り上げ、欠損値は除く。

3. 海外就労への関心 (表3)

海外で働いてみたいかという問いに対し、「はい」と回答したのは131名(60.6%)、「いいえ」が55名(25.5%)、「わからない」が30名(13.9%)であった。

表3 海外就労への関心 (n=227)

海外で働いてみたいか	人数	割合
はい	131	60.6%
いいえ	55	25.5%
わからない	30	13.9%

欠損値は除く。

4. 海外就労に期待すること (図3)

上記3で「はい」と回答した131名を対象に、海外就労に期待することを聞いたところ、「自分の能力を高めることが出来る」が42名(35.9%)で最も多く、次いで、「賃金が高い」40名(34.2%)、「福利厚

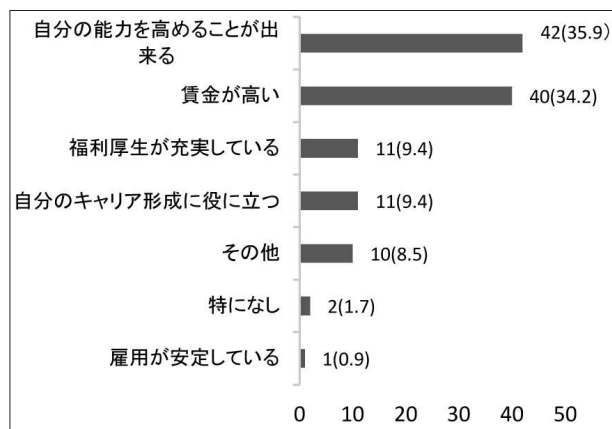


図3 海外就労に期待すること (n=131)
値はn (%) 欠損値は除く。

生が充実している」、「自分のキャリア形成に役に立つ」が11名(9.4%)と続いていた。また、「その他」の自由記述の回答には、「海外での経験が得られること」、「休日」などの回答がみられた。

5. 海外就労への関心に関連する要因 (表4)

1) 基本属性

(1) 人口・世帯に関する状況

関心有群は、関心無群に比べて年齢が有意に低くみられた ($P=0.041$)。また、婚姻状況について、独身と答えた者が関心有群に84名(64.1%)と多い傾向がみられたが、有意差はみられなかった。

(2) 社会経済的状況

看護師経験年数について、関心有群が無群に比べて有意に短いことが分かった ($P=0.027$)。それ以外の項目について有意差はみられなかったが、関心有群で、家族や親族の海外就労経験が「有」と回答した割合が高い傾向がみられた。

2) 価値観

「家族」、「友人・知人」、「余暇」、「政治」、「仕事」、「宗教」の価値観うち、唯一、「余暇」に有意差が見られた。

IV. 考察

1. 本研究の対象者の特徴

インドネシアの宗教分布は、イスラム教が86.1%、プロテスタント5.7%、カトリック3%、ヒンドゥー1.8%、その他・不明が3.4%とされる⁹⁾。インドネシアは多民族国家から構成され、言語と同様、宗教にも地理的分布が存在しており¹⁰⁾、今回は、スマトラ島が主な調査地であったことから、

インドネシア人看護師の価値観と海外就労

表4 海外就労への関心に関連する要因 (N=227)

	全体n=227	関心有 n=131	関心無n=85	P
<人口・世帯に関する状況>				
居住地域				0.576
ブカンバル	186 (81.9)	111 (84.7)	69 (81.2)	
タンゲラン	41 (18.1)	20 (15.3)	16 (18.8)	
性別				0.692
女性	194 (86.6)	111 (86.7)	72 (84.7)	
男性	30 (13.4)	17 (13.3)	13 (15.3)	
年齢 (range : 20-45)	27.6±4.79	27.1±4.36	28.4±5.30	0.041*
宗教				0.721
イスラム	122 (54.0)	66 (50.8)	47 (55.3)	
カトリック	21 (9.3)	14 (10.8)	7 (8.2)	
プロテスタント	78 (34.5)	46 (35.4)	30 (35.3)	
その他	5 (2.2)	4 (3.1)	1 (1.2)	
婚姻状況				0.119
独身 (離婚1 ケース含)	138 (60.8)	84 (64.1)	45 (52.9)	
既婚 (死別2 ケース含)	89 (39.2)	47 (35.9)	40 (47.1)	
世帯家族数 (range : 0-10)	3.81±2.29	4.05±2.28	3.50±2.31	0.109
子供の有無				1.000
無	120 (62.5)	64 (62.1)	48 (61.5)	
有	72 (37.5)	39 (37.9)	30 (38.5)	
扶養者の有無				1.000
無	98 (54.1)	53 (53.5)	39 (53.4)	
有	83 (45.8)	46 (46.5)	34 (46.6)	
海外への渡航経験				0.297
無	197 (87.6)	110 (85.3)	77 (90.6)	
有	28 (12.4)	19 (14.7)	8 (9.4)	
最終学歴				0.471
専門学校	186 (82.3)	105 (80.2)	71 (84.5)	
大学	40 (17.7)	26 (19.8)	13 (15.5)	
<社会経済的状況>				
現在の職位				0.286
Primary nurse	179 (82.9)	100 (79.4)	69 (87.3)	
Associate nurse	32 (14.8)	23 (18.3)	8 (10.1)	
その他	5 (2.3)	3 (2.4)	2 (2.5)	
現施設での就労年数 (年)	1.12±0.72	1.04±0.73	1.19±0.69	0.165
看護師経験年数 (年)	5.24±4.60	4.74±4.28	6.26±5.03	0.027*
勤務形態				0.716
フルタイム	118 (57.0)	69 (58.0)	43 (55.1)	
パートタイム	53 (25.6)	31 (26.1)	19 (24.4)	
その他	36 (17.4)	19 (16.0)	16 (20.5)	
シフト勤務の従事の有無				1.000
無	38 (17.4)	21 (17.1)	14 (16.5)	
有	181 (82.6)	102 (82.9)	71 (83.5)	
家族や親族の海外就労経験				0.399
無	105 (49.5)	61 (47.3)	44 (53.7)	
有	107 (50.5)	68 (52.7)	38 (46.3)	

値はn (%) もしくはmean±SD、欠損値は除く。 *P<.005

表4 海外就労への関心に関連する要因 (つづき) (N=227)

	全体n=227	関心有 n=131	関心無n=85	P
<価値観> (range : 1-5)				
家族	4.73±0.58	4.74±0.61	4.67±0.58	0.356
友人・知人	4.03±0.61	4.04±0.59	4.02±0.67	0.798
余暇	3.77±0.70	3.69±0.72	3.91±0.69	0.025*
政治	2.86±0.54	2.89±0.52	2.84±0.59	0.537
仕事	4.49±0.54	4.54±0.51	4.41±0.58	0.101
宗教	4.80±0.47	4.81±0.50	4.76±0.45	0.422

値はmean±SD、欠損値は除く。 **P<.005

上記の宗教分布と異なりプロテスタントの割合が34.5%と高い傾向になったと思われる。

また、今回、調査対象となった2施設は、開設してまだ5年以内という新しい施設であったため、対象者の現施設における就労年数が短い傾向にあるという特徴を有している。

2. 価値観について

インドネシア人看護師にとって、日常生活の中で「宗教」が最も重要度が高いことが分かった。インドネシアでは、イスラム教、カトリック、プロテスタント、ヒンドゥー教、仏教の5つが政府公認の宗教とされており、国の方針で国民はいずれかの宗教に帰属する必要がある⁹⁾。このような社会的背景もあり、今回の研究対象者も、日常生活の中で「宗教」を重要視する価値観を身に付けていることが明らかになった。

また、インドネシア人にとって「家族」という存在は、重要且つ安定した人間関係を保つことのできるシステムであり、また、肉体的、精神的なやすらぎの中心とされていることから¹¹⁾、今回の結果でも当該項目の値が高くなったと考えられる。しかも、「家族」という存在は、精神的な繋がりという意味合いだけでなく、結婚するまで同居する両親・兄弟の金銭的援助をするという経済的なつながりでもあるため¹²⁾、「仕事」に対する重要度も、先の2項目に次いで高い結果になったと考えられる。

上記の結果について、日本で実施された世界価値観調査(2005)の結果と比較したところ、回答に顕著な差がみられたのは「宗教」であった。インドネシア人対象者は、「宗教」を「とても重要」と捉えている割合が圧倒的であるのに対し、日本では、「全く重要でない」と回答した割合が最も高かった¹³⁾。また、「家族」と「仕事」については、両国とも「非常に重要」、「やや重要」と捉えており、類似した傾

向が見られた。

以上のことから、両国間では、特に、「宗教」に対する価値観が大きく異なっているため、一緒に就労していく上で、この違いを双方で強く認識し、根気強く理解しようとする姿勢を持たなければ、文化的な衝突を生じ得る可能性が考えられる。実際、イスラム教徒のインドネシア人候補者を受け入れた施設からは、候補者が宗教を大事にしていることを尊重する大切さを学んだが、一緒にやっていくのはまだまだ難しいとの報告がある⁶⁾。また、他施設からも、文化背景の異なる人と接すれば接するほど互いに葛藤が増え、混乱を招くこともあるため、どのように共存していくかという問題意識を互いに持ち、摩擦を避けるためのスキルが求められるとの報告がなされている¹⁴⁾。

3. 海外就労への関心について

海外で働いてみたいかという問いに対し、対象者の6割が「はい」と回答していることから、海外就労に関心を持つ者が多いことが分かった。川口(2009)によれば、インドネシアの看護師養成機関には、「国内外で競える能力のあるプロフェッショナルな新人看護師を輩出する」と明記したカリキュラムが存在しており¹⁵⁾、養成段階から海外就労を見越した教育プログラムが組まれている。そういった教育背景もあって、インドネシア人看護師は海外就労に対する抵抗感が少ないと考えられる。しかも、インドネシアでは子供が経済的に独立をすると、親に恩返しをしなければならないという観念が若者の間で強いことから¹¹⁾、より待遇の良い就労機会があれば、家族を経済的に支えるために挑戦しようとする姿勢が今回の結果に影響したのではないだろうか。

4. 海外就労に期待すること

平野 (2010) によれば、第1陣、第2陣のインドネシア人看護師候補者の来日動機として、「自分のキャリアをのびしたいから」が最も多く、次いで、「家族を経済的に支援したいから」が圧倒的に多かった¹⁶⁾。彼らの来日動機の特徴として、“自身のキャリア”と“家族を経済的に支援すること”のどちらか一つを動機とする者は少なく、程度の差こそあれ、両方を合わせ持つという特徴を有している¹⁷⁾。今回の調査では、対象者に海外就労に期待することを聞いているため、“来日動機”と意味合いが異なる可能性は否定できないが、結果として、自身のキャリアに関連した「自分の能力を高めることが出来る」と、経済的な動機である「賃金が高い」の項目が群を抜いて高くなっていることから、先行研究と類似する結果が得られたと考える。また、今回の調査では、重複回答を認めていなかったため、上記の特徴を有しているかどうかは不明である。

5. 海外就労への関心に関連する要因

1) 基本属性の(1)人口・世帯に関する状況では、唯一、年齢に有意差が見られており、海外就労に関心有群の方が年齢が低い傾向にあることが分かった。第2陣で来日したインドネシア人看護師候補者144名を対象とした調査では、平均年齢が27.1歳 (SD±3.2歳) と、同じくEPAで来日したフィリピン人看護師候補者 (n=100、平均年齢32.0歳、SD±4.9) と比較しても若い世代が多いことから¹⁶⁾、今回の調査結果では、実際のインドネシア人看護師候補者の特性と一致する傾向がみられた。

(2) 社会経済的状況では、海外就労に関心有群の方が無群よりも、看護師経験年数が短い傾向にあることが明らかになった。現在来日中のインドネシア人看護師候補者の臨床経験年数を見ると、看護師経験が5年の者、3年4ヶ月の者¹⁴⁾、また、その一方で、臨床経験が全くない者等も存在する¹⁶⁾。彼らの経験年数には全く統一性は無く、大きなばらつきがみられているが⁶⁾、今回の結果では、海外就労への関心と看護師経験年数が関連していることが分かった。また、今回の調査では有意差は見られなかったが、関心有群の方に、家族や親族といった身近な存在に海外就労経験を有する者の割合が高く、対象者の海外就労に対する関心に何らかの影響を与えた可能性が考えられる。

2) 価値観の項目では、唯一、「余暇」に有意差

が見られており、海外就労に関心有群の方が「余暇」に対する重要度が低い傾向にあることが分かった。インドネシア人は余暇の過ごし方について、家族との時間を大切にする傾向があり、週末も家族と一緒に過ごすことが多いという¹⁸⁾。今回、有意差は見られなかったが、関心有群に独身者が多かったことも、今回の「余暇」の価値観の結果に影響を与えたのではと考える。

6. 本研究の意義

本研究は、これまで殆ど焦点のあてられていなかったインドネシア人看護師の価値観に着目し、また、彼らの全体像を把握する上で、海外就労への関心に関連する個人・文化的特性を明らかにした点で、非常に意義あるものと考えられる。

今回の分析の結果、「宗教」の重要度が最も高いことが分かり、日本人の価値観と大きな違いがあることが明らかになった。また、海外就労への関心には、年齢、看護師経験年数、「余暇」に対する価値観などの個人・文化的要因が関連していることが明らかとなった。今回の調査により、インドネシア人看護師が海外就労で期待していることや、海外就労に関心を持つ対象者の文化的背景とその特性を示すことが出来たので、今後、インドネシア人看護師の雇用を検討する上での一材料として、そしてまた、文化的相違による衝突を避ける上での一助になると考える。

7. 本調査における限界

インドネシアは6,000もの島々から構成される島嶼国であり、島々により多様な文化が存在する。そのため、今回の2島2都市で実施した調査結果を一般化するには不十分であると考えられる。また、今回の調査では、現地看護師を対象に、海外就労への関心の有無を尋ねたが、その後の追跡調査を行っていないため、今回の結果が実際に来日するインドネシア人候補者の実像をどの程度正確に投影したものであるかは不明である。

謝辞

今回の調査の実施にあたっては、インドネシア大学看護学部、現地医療施設の関係者等より多大なる協力を受けたことを深く感謝いたします。また、お忙しい中、調査に協力をいただいた施設関係者全ての皆様に感謝の意を申し上げます。

なお、本研究は、日本学術振興会の若手スタート支援の助成を受けて実施したものである。

文献

- 1) 厚生労働省 日・インドネシア経済連携協定に基づくインドネシア人看護師・介護福祉士候補者の受入れ等について <http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/other21/>.
- 2) 浅野美代, これから増える外国人ナースとどう付き合い、育てるか, *Nursing college*, 13(5), 24-29(2009)
- 3) 甘利てる代, 介護の国際化が始まっている, *Community care*, 12(11), 8-9 (2010)
- 4) Achir Yani Syuhaimie Hamid, インドネシア・日本経済連携協定に向けて指導する看護師-求められる改革と看護師協会の役割, 始動する外国人材による看護・介護-受け入れ国と送り出し国の対話, 16~19, 笹川平和財団, (2009)
- 5) 竹内美佐子, 外国人看護師との協働上の課題と協調のプロセス, *Nursing Business*, 3(1), 82-89(2009)
- 6) 長江美代子, 岩瀬貴子, 古澤亜矢子, 他, EPAインドネシア看護師候補者の日本の職場環境への適応に関する研究, *日本赤十字豊田看護大学紀要* 8(1), 97-119(2013)
- 7) 青木恵理子, 植野弘子, 浜本まり子, 他, 『文化人類学』(カレッジ版第2版), 4~5, 医学書院, (2002)
- 8) 西尾実, 岩淵悦太郎, 水谷静夫『岩波国語辞典』(第7版), 1329, 岩波書店, (2009)
- 9) CIA, The World Fact Book <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/id.html>
- 10) インドネシア共和国<http://www.biwa.ne.jp/~x208403/data/indonesia.html>
- 11) 石澤武「ジャムウー民衆の思考と技法-」村井吉敬, 佐伯奈津子編『インドネシアを知るための50章』, 116~121, 明石書店, (2004)
- 12) キャシー・ドレーン, バーバラ・ホール 「多様性の中の統一」増永豪男訳 『カルチャーショック インドネシア人』, 13-36, 河出書房, (1998)
- 13) Inglehart R「生活領域の価値観」電通総研・日本リサーチセンター編『世界主要国価値観データブック』98-100, 同友館, (2008)
- 14) 小幡順子, 久木原弘子, 医療現場における異文化間葛藤の分析-インドネシア人看護師候補者との文化接触を通して-*インターナショナル Nursing Care Research*, 11(2), 59-68(2012)
- 15) 川口貞親, 日本、フィリピン、インドネシアの看護教育カリキュラムの比較, *九州大学アジア総合政策センター紀要* 3, 91-104(2009)
- 16) 平野裕子, 小川玲子, 大野俊, 2国間経済連携協定に基づいて来日するインドネシア人およびフィリピン人看護師候補者に対する比較調査: 社会経済的属性と来日動機に関する配布票調査結果を中心に, *九州大学アジア総合政策センター紀要* 5, 153-162(2010)
- 17) クレアシタ, インドネシア人の看護師・介護福祉士候補者の来日動機に関する予備的調査-西日本の病院・介護施設での聞き取りから-, *九州大学アジア総合政策センター紀要* 5, 193-198(2010)
- 18) 日本貿易振興機構http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07000570/6_leisure.pdf Accessed August 23, 2013